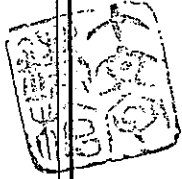


宮藏院疏文字鎌倉教本



奈良市武道振興会 槍教室(宝蔵院槍術)稽古カリキュラム

	入門	初級	中級	上級
	● 入門者は奈良市武道振興会所定の手続きを終え、槍教室の所屬となる。 ● 槍教室の稽古は、毎週土曜日十二時～十四時。 ● 三ヶ月間は基本稽古。	● 表十四本を全て修了、原則として一年以上を経過し、三十六日以上の実績を有する者。 ● 所定の審査に合格した者に初級修得証書が授与される。	● 表十四本、裏十四本を全て修了、原則として、初級修了後一年以上、三十六日以上の実績を有する者。 ● 所定の審査に合格した者に中級修得証書が授与される。	● 表十四本、裏十四本、新仕掛け七本を全て修了し、原則として、中級修了後一年以上、三十六日以上の実績を有する者。 ● 所定の審査に合格した者に上級修得証書が授与される。

★伝習生は原則として、免許皆伝者から新しい技の教授を受ける。

★槍教室の昇級は宗家及び免許皆伝者による審査に合格した者に奈良市武道振興会が修了証書を授与する。

★『目録』以上は宗家より印可状を授与される。

宝蔵院流高田派槍術

槍合わせの型

一 礼法

● ● ●
演武は鎌槍と素槍を用いて行う。

鎌槍は仕方、素槍は打方。

鎌槍の者は両方の槍を互い違いに持ち、

素槍の者と共に正面に向かい進む。

並びて止まり、両者正面に礼、

鎌槍の者、二本の槍を正面に捧げ持ち、

両膝をつく。

正面に二本の槍を置き、

先に素槍を左に滑らせて、

次に鎌槍を右に滑らせる。

互いの槍の穂先を二、三寸離す。

(その時に穂先に当たる部分は触らない)

所定の位置に槍を置いて立ち上がり、

両者石突きの方へ進み、向かい合つて立つ。

● ● ●
両者石突きの手前で両膝をつき、

手は股の前に置き軽く目礼をする。

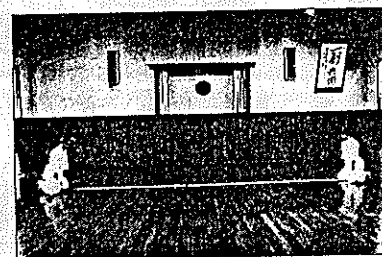
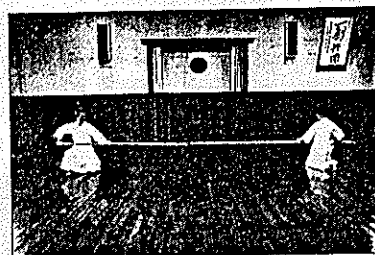
右手にて槍の端を持ち右膝を立て、

体を左半身に構え、その姿勢のまま、

左手を添えてしごく。

右手を左手までずらし、

右手のみで槍を持ち、互いに四、五歩下がる。



二 槍構え

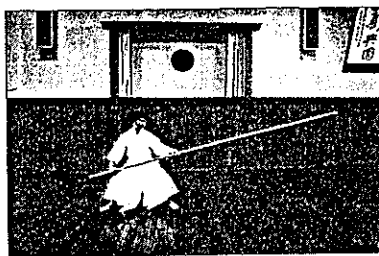
● ● ●
右手にて槍の中心(重心)を持ち穂先を下げて立つ。

左足を一步踏み出すと同時に左手を添えて、

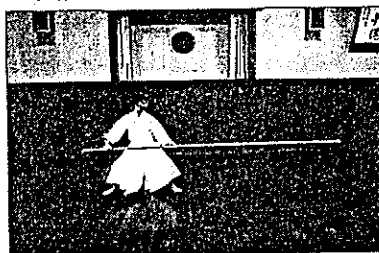
右手を前に出してしごく。

● ● ●
槍は水平、腰を十分落とし、背筋を伸ばして、顔のみ正面を向く。

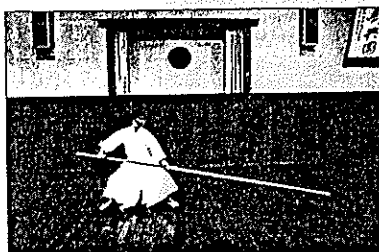
上段の構え (頭の高さ)



中段の構え (腰の高さ)



下段の構え (床上)



《表十四本》

(一)

倒用 とうよう

(相下段)

素槍 裏面突くを、鎌槍これを冠に受け巻き落とす。
素槍 股を突くを、鎌槍右手を上げ下段に受け二歩進む。
素槍 前面突くを、鎌槍これを引き落とし二歩進み構えて直る。

(二)

一挽 いちちつ

(鎌上段)

素槍 裏面突くを、鎌槍左にしのぎ、
左回りに大きく一回転して引き落として直る。

(三)

粘花 ねんげ

(相下段)

素槍 裏面突くを、鎌槍冠に受け直ぐに
気合いを入れながら前に進み中段に抑えて直る。

(四)

五個 ごか

(鎌上段)

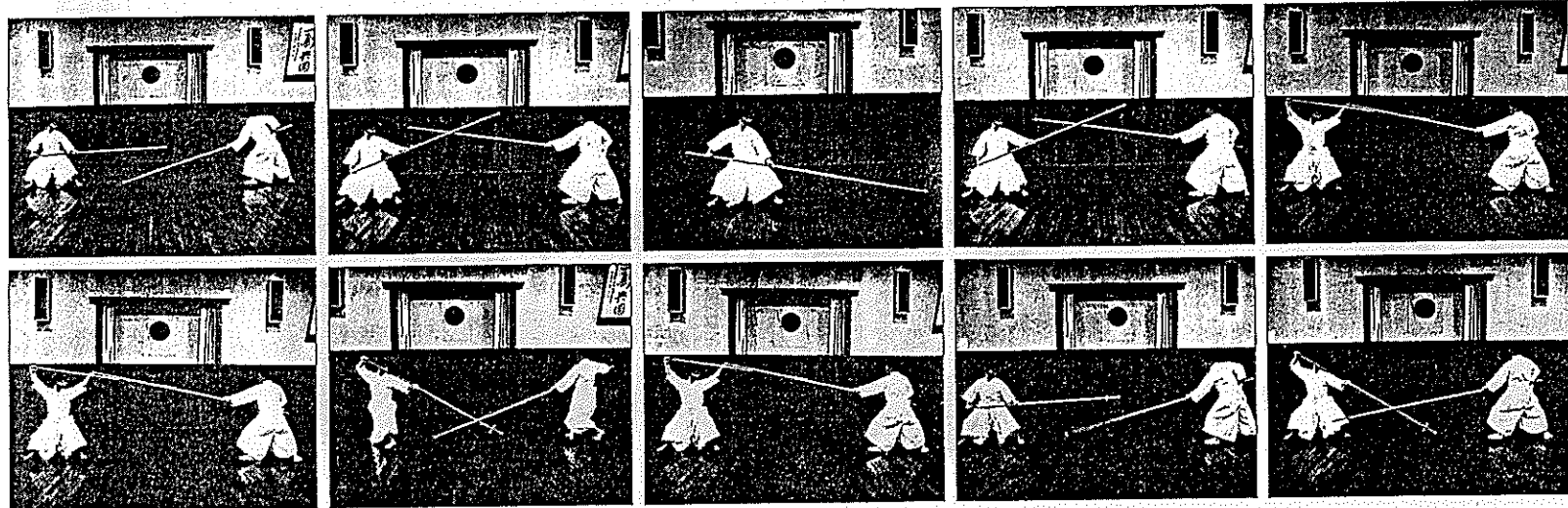
素槍 裏面を突くを、鎌槍左にしのぎ、右足を
一歩踏み出し右手を上げながら半回転して押える。
素槍 裏面面突きにくるを、鎌槍これを冠に受け
二歩進み直る。

(五)

半冠 はんかむり

(相下段)

素槍 前面突くを、鎌槍これを切り落とす。
次に股を突くを鎌槍右手をあげ、下段にて受ける。
素槍 裏面突くを、鎌槍冠に受けて直る。



(六)

十箇 じつか

(相下段)

素槍 裏面突くを、鎌槍冠に受け相手を押えながら
進み直る。

(七)

巻槍 まきやり

(相上段)

素槍 左廻りに最初小さく、だんだん大きく廻しながら
相手を惑わし、鎌槍の裏面を突く。

鎌槍 これを左に凌いで受け、
右手を上げながら半回転して押える。

素槍 前面突くを、鎌槍これを切り落とし直る。

(八)

相位 あいぐらい

(相下段)

素槍 裏面突くを、鎌槍冠に受け中段に受け直りて進む、
もう一度くり返して直る。

(九)

引落 ひきおとし

(鎌上段)

素槍 前面突くを、鎌槍これを引き落とす。
素槍 股突きにくるを、
鎌槍右手を上げて下段に押え、二歩進む。

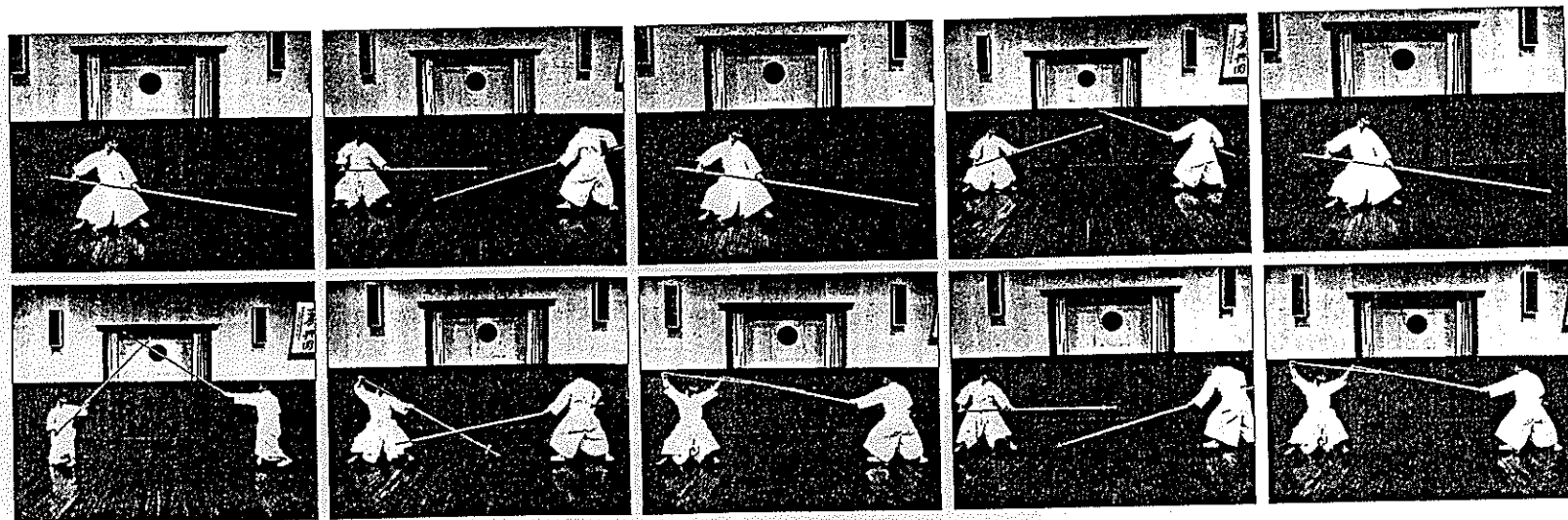
素槍 再び前面突くを、鎌槍これを引き落とし直る。

(十)

管 くだ

(相下段)

素槍 鎌槍共に、相下段よりゆっくり上段をとる。
互いに左手首を返して開く、元に戻り槍を合わせ、
鎌槍を押さえにくる。
素槍 鎌槍を押さえにくる。
右足を一歩踏み出し素槍を押し上げ手首を返して
鎌で切り落とし直る。



(十一)

突きめけ
突抜

(相下段)

鎌槍 前面突きに来る素槍を体を後ろに反らして
突きを避けこれを右に払う。
鎌槍 素槍の下を廻し抜けて裏胴を突いて直る。

(十二)

うろこ
鱗

(相下段)

素槍 前面突くを鎌槍これを引き落とすも落ちず、
鎌槍 手首を返して右足を入れながら素槍を
掬い上げ切り落とす。

(十三)

あいずよび
合図呼

(相上段)

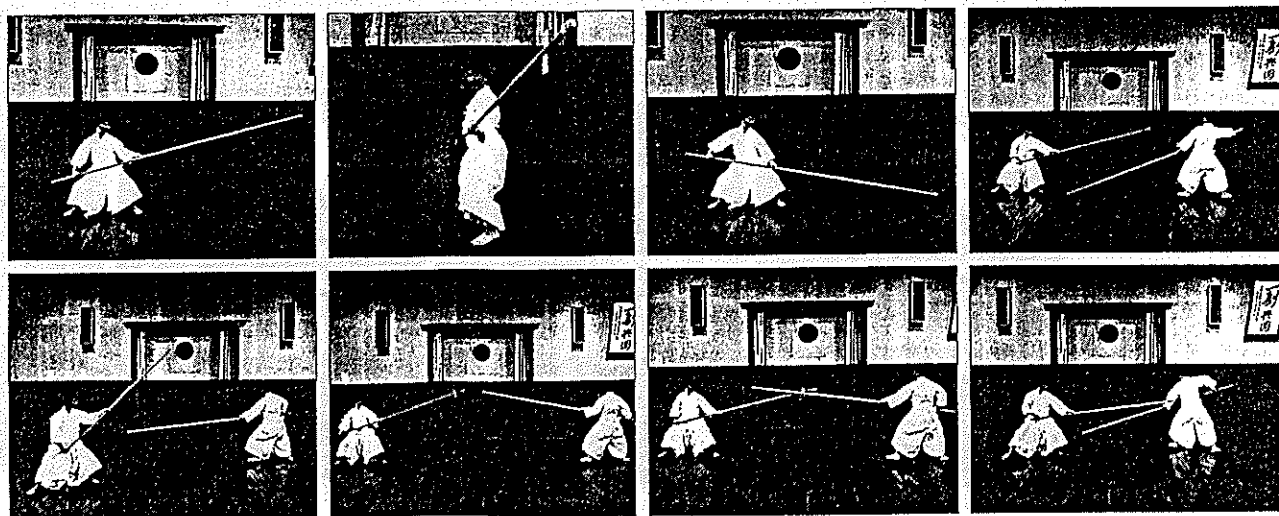
素槍鎌槍 互いに手首を返して開く。
素槍 前面突くを、鎌槍手首を戻して巻落とし突く。
素槍 裏面突きにくるを、鎌槍冠に受けて直る。

(十四)

とほめ
遠目

(鎌上段)

素槍 上段構えの鎌槍を大きく右に払う。
鎌槍 その下を抜けて槍を上げ裏胴を突きにくる素槍を
打ち落とす。
鎌槍 素槍の裏胴を突きて直る。



《裏十四本》

(一) 倒用 (相下段)

表と同じ、
素槍 前面突かんとするを、鎌槍素早く擦り込み直る。

(二) 一挽 (鎌上段)

表と同じ、
素槍 裏胴を突きにくるを、鎌槍左手を軸にはね上げ右鎌にて手元に掛け引きながら直る。

(三) 粘花 (相下段)

素槍 裏面突きにくるを、鎌槍冠に受け返ししながら素槍の手元に擦り込み直る。

(四) 五個 (鎌上段)

表と同じ、鎌槍、素槍を左に凌ぎ槍を離さず半回転する。
素槍 裏面突きにくるを、鎌槍左鎌にて擦り込みて直る。

(五) 半冠 (相下段)

表と同じ、
素槍 裏面突くを、鎌槍これを冠に受け、巻き返して手元に擦り込み直る。

(六) 十箇 (相下段)

素槍鎌槍 三歩目互いに筋違いで左に開き一瞬止まる。
素槍 裏胴突くを、鎌槍左手を返してはね上げ前胴を突く、
右鎌を素槍の手元に掛け引きながら直る。

(七) 卷槍 (相上段)

表と同じ、
素槍 前面突きにくるを、鎌槍手元に擦り込み直る。

(八) 相位 (相下段)

表と同じ、
素槍 裏面突きにくるを、鎌槍これを冠に受けそのまま擦り込み直る。

(九) 引落 (鎌上段)

表と同じ、
素槍 前面突きにくるを、鎌槍手元に擦り込み直る。

(十) 管 (相下段)

表と同じ、
素槍 押さえにくるを、鎌槍右足を斜め前に踏み出し素槍を右下方へ抑える、
鎌槍 左足を滑りこませそのまま素槍の手元に擦り込み直る。

(十一) 突抜 (相下段)

鎌槍 牽制気味に素槍の前面突くを、素槍これを右に払う。
鎌槍 この素槍を受け引き落とし前胴を突いて直る。

(十二) 鱗 (相下段)

素槍 前面突くを、鎌槍引き落として右足を入れながら掬い上げ擦り込み直る。

(十三) 合図呼 (相上段)

表と同じ、
素槍 裏面突くを、鎌槍冠に受け巻落とし前胴を突いて直る。

(十四) 遠目 (相下段)

素槍 鎌槍が前面突きにくるを右に大きく払う。
鎌槍 これを下から廻し抜きて右斜め後方に退きながら鎌槍を上げ、
素槍再び裏胴突きにくるを叩き落とし中段構えにて直る。

《新仕掛七本》

(一)

逆擦込み
ぎやくすりこみ

(相下段)

素槍 前面突くを鎌槍引き落とす。
素槍 裏面突くを、鎌槍手首を返して払い上げ
左鎌にて手元に擦り込み直る。

(二)

抜け突き
ぬけつき

(鎌上段)

素槍 前胸、裏胸と突くを、鎌槍これを打ち落とす。
素槍 下から左に大きく払うを、鎌槍その下をくぐり抜け
前胸を突き直る。

(三)

入れ違い
いれちがい

(鎌上段)

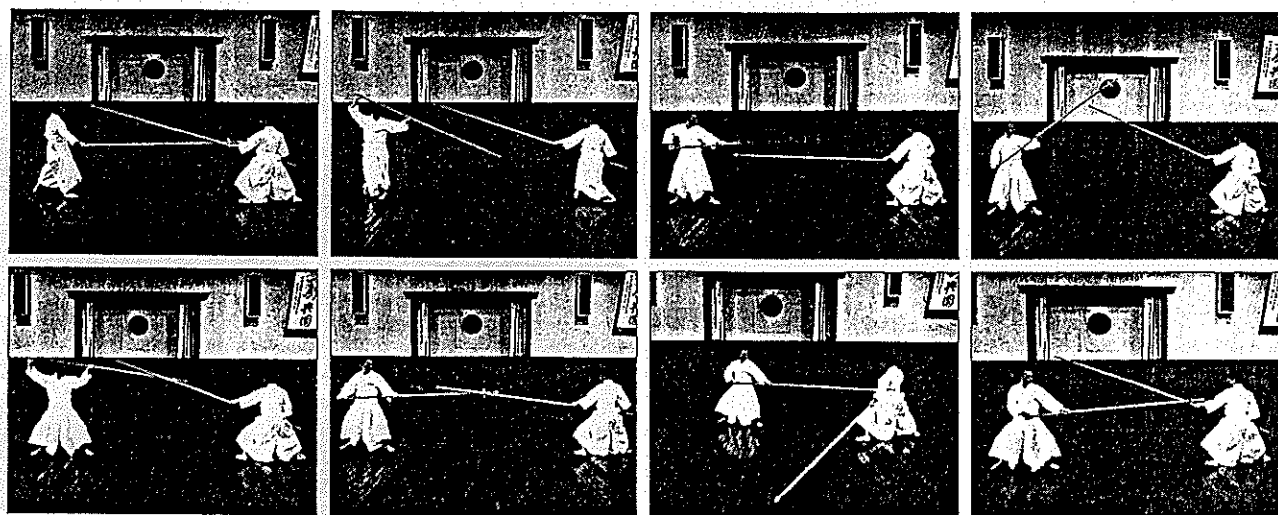
素槍 前面突くを、鎌槍これを引き落とし上段に構える、
素槍 下より払いにくるを鎌槍右足を入れながら
下方によける、
鎌槍 左足を踏み出してこれを払う、二度くり返した後、
打ち張りを三度して、打ち落とし突き直る。

(四)

右手突き
うてつき

(相下段)

素槍鎌槍 相下段よりゆつくり中段をとる、
鎌槍 右足より三歩攻め込む気持ちにて進む、次に
三歩退く、次に右足を出しながら右手にて擦り込む。
素槍 それを押さえるを、鎌槍左足を入りに冠に受ける。
素槍 自ら一回転させて裏面突くを、鎌槍冠に受けて直る。



(五)

柄返し えがえし

(鎌大上段)

素槍 前面突くを、鎌槍大上段より巻落とす。

互いに上段に合わせた後、素槍下段に押え、

鎌槍をはね上げようとするを、

鎌槍 相手の力を利用して、柄を返して右足から

飛び込み折り敷き、石突きで喉を突く。

(六)

早馬 はやうま

(相下段)

素槍 前面突くを、鎌槍これを、引き落とす、

素槍 前胴、裏胴、前胴、裏胴、と突くを、

鎌槍 ポンポンと早馬の如く押さえる。

鎌槍 手首を返して、継ぎ足にて反撃する、三度打ち張り

後二度目を打ち落とし、前胴を突いて直る。

(七)

飛鳥 ひちょう

(鎌上段)

素槍 前面突くを、鎌槍引き落とす、

互いにゆっくり中段に合わせる。

鎌槍 手首を返しながら打ち張り、

三度目を落として前胴を突く。

素槍 互いにゆっくり上段に合わせる。

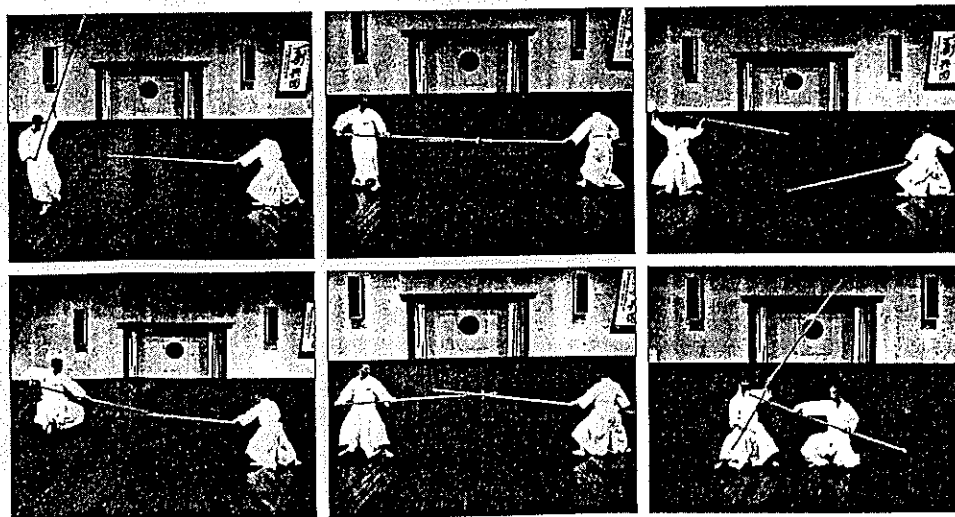
素槍 左に払わんとするを、鎌槍前足を引き付けて

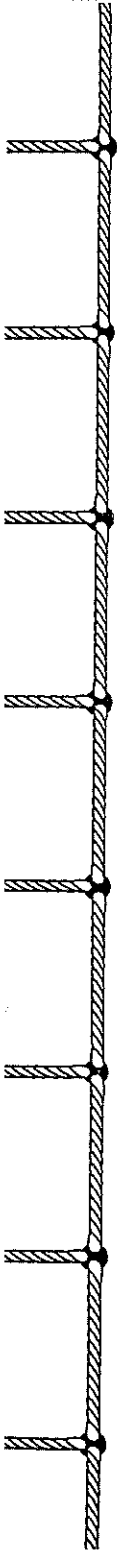
冠に受ける、

素槍 さらに払いて鎌槍の裏胴を突くを、

鎌槍 飛び下がりがつつ打ち落とし、裏胴を突いて直る。

(宝蔵院流高田派槍術、槍合わせの型、表十四本、裏十四本、新仕掛け七本、計三十五本)





奈良宝蔵院流槍術保存会

〒630 奈良市法蓮町1530 (財) 奈良市武道振興会内

☎ 0724-27-6163

平成九年六月発行 限定200部